空知管内　第2回EBE協議会

中学校までの学びの成果・課題を踏まえた授業改善の視点

学びと指導の連続性を深める中高連携を目指して

令和6年10月8日
北海道栗山高等学校

発表の内容

１　本校の紹介

２　中学・高校の学力・学習状況の相関について

３　本校における中高連携の現状と課題

４　中学校と高等学校の連携の形

５　これからの栗山高校が目指す教育とは

１　本校の紹介①

（１）学級数・生徒数

全日制課程　普通科

学年	１	２	３	合計
学級数	２	２	１	５
男	１６	１３	１２	４１
女	３３	３５	１０	７８
女子野球	（１６）	（１５）	（０）	（３１）
合計	４９	４８	２２	１１９

生徒数減少に伴い
２年連続　１間口

↓

女子硬式野球部創設
（特色ある高校　＝　魅力化）

↓

２年連続　２間口
１・２年生の３２％が
女子硬式野球部員
（全員町外生）

１　本校の紹介②

（２）出身地域別生徒数

	１年	２年	３年	合計	%
栗山町	２２	２５	２０	６７	５６．３
由仁町	１	１	２	４	３．４
長沼町	２	０	０	２	１．７
南幌町	１	４	０	５	４．２
旧栗沢町	０	０	０	０	０
その他	２３	１８	０	４１	３４．４
合計	４９	４８	２２	１１９	１００

１　本校の紹介③

（３）R5年度卒業生　進路決定状況

種別	進学				就職		その他	合計
	大学	短期大学	看護学校	専門学校	公務員	民間		
男子	６	０	０	３	１	６	０	１６
女子	４	０	０	１２	０	７	０	１３
合計	１０	０	０	１５	１	１３	０	３９

◎　国公立 １名、道内私大 ８名、北海道介護福祉学校 １名
◎　１／３が就職（全員道内、栗山町内 ４名）

２　中学・高校の学力・学習状況の相関について①

栗山中　R5.4.18　　全国学力・学習状況調査
栗山高　R6.4.09　　スタディサプリ到達度テスト

類似点・問題点の洗い出し

学力面（正答率 %の低い分野）

国語			数学			英語		
	中３	高１		中３	高１		中３	高１
漢字	**43.3**	**46.9**	空間図形	**15.0**	**12.2**	英作文	**7.5**	**18.3**
読解	**43.3**	**20.4**	データ分析	**21.7**	**14.2**	読解	—	**28.5**

◎　国語・数学　横ばいor低下　➡　高校においても同分野が苦手か？

◎　英語　上昇傾向　➡　中学時の授業改善の成果か？

２　中学・高校の学力・学習状況の相関について②

栗山中　R5.4.18　　全国学力・学習状況調査

栗山高　R5.3.12　　全国学力・学習状況調査（現２年）

類似点・問題点の洗い出し

学習状況調査結果（４段階のうち上位２段階･･･肯定的な回答の%集計）

	質問事項	中３	高２（全道）
①	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。	**98.3**	**84.1 (86.9)**
②	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含みます）。	**61.1**	**45.5 (45.7)**
③	今住んでいる地域の行事に参加している。	**45.7**	**45.3 (37.2)**
④	PC・タブレットなどのICT機器を活用して、自分に合った学習ができていると思いますか。	**96.6**	**61.3 (74.6)**

◎　家庭学習習慣の低下　➡　塾卒業のため？　本校入学生徒層のため？

◎　ICT機器活用度の低下　➡　高校側（指導側）の情報リテラシー不

２　中学・高校の学力・学習状況の相関について③

「エビデンスって何？

　エビデンスとは、「科学的根拠」という意味です。客観性、妥当性、再現性があり、確からしい知見をエビデンスといいます。残念ながら、データ、研究、評価と似たような言葉がありますが、エビデンスとは、質のより高いものです。イメージでいうとふるいに落とされた純正の高いもの（純金や結晶）のようなものです。」

出典：「森俊郎　“エビデンスに基づく教育（ＥＢＥ）を学びたい！”」
エビデンスに基づく教育研究会　https://ebe-riron-jissen.jimdofree.com/

EBEを実践するには
データ、分析のための
の情報、目標が必要

・生徒の実態把握
・中学校と高校の情報共有
・地域（栗山町）や保護者の願い
・栗山高校で達成したい目標の明確化

３　本校における中高連携の現状と課題①

栗山中との連携内容

①　栗山町校長会　　毎月開催

②　栗山町教頭会　　年４回開催

③　学校運営協議会連絡会

④　中学への出前授業　開催予定

⑤　学校説明会　7/12実施（栗山中　35名参加）

⑥　中学校授業参観　　高校からの見学者３名

⑦　中高相互授業参観週間　　１１月頃予定

⑧　入学前　中学校訪問

⑨　部活動交流　他･･･

３　本校における中高連携の現状と課題②

連携内容から見えてくる現状

◎　中学生とその保護者、中学校教員が高校を見学する機会は設定されている。

◎　中学と高校の情報共有は管理職レベルでは行われている。

◎　教師がお互いの授業を見学したり、合同で研修を行ったりする等、指導内容にまで踏み込んだ取り組みが不足している。（見学の機会はあるが、利用できていない）

３　本校における中高連携の現状と課題③

連携に関する意見・感想

◎　中学生の学力や理解度を知るためにも授業交流は効果的と考える。

◎　不登校や特別支援への対応のため、情報交換は不可欠。

◎　中学校における学びの実態についてよく知らない。中高での指導観に違いがあるのではないか？

◎　弱点補強は模試の分析により可能である。

◎　生徒層が異なる（栗山中　≠　栗山高）ため、教科指導における連携の効果は限定的では？

4　中学校と高等学校の連携の形

連携レベル

高

↕

低

中高一貫	完全型 中等教育学校	一つの学校として，一体的に中高一貫教育を行うもの 6年間で一貫した教育を受けられる
	併設型	同一の設置者による中学校と高等学校を接続するもの 内部進学生と高校入学組が混在
	連携型	異なる設置者間でも実施可能な形態 中学校と高等学校が教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深めるかたちで中高一貫教育を実施するもの
栗山中 ＆ 栗山高の目指す形		**学力と生徒指導に関してスムーズな連携が行われ、地域で子どもを育てる意識が醸成できる**

５　これからの栗山高校が目指す教育とは

今、教育に求められているもの

- ◆　１人ひとりの特性や学習進度に合わせた「個別最適な学び」
- ◆　他者の感性や考え方に触れ、刺激し合うなかで培われる「協働的な学び」

　　➡　個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を考えた授業づくり

- ◆　自ら学びを舵取りできるようになるための学びのユニバーサルデザイン（UDL)の必要性

エビデンスに基づく教育実践のために

- ◆　中学校との連携強化　➡　正確な生徒の実態把握・生徒理解
- ◆　ICTの効果的な活用　➡　「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善